

⑪ Advanced Information Processing in ESPRIT—Status and Plans

J.M.Cadiou(CEC,ベルギー)

発表要旨

ESPRITは1984年以來10年計画の研究開発を促進するプログラムであり、以下の3つを主目的とする。

- 情報技術におけるヨーロッパの産業的協力の促進。
- 情報技術産業に1990年代に対処できる基本的技術を提供する。
- 世界の技術のレベルの向上にも貢献。

ESPRITの第一フェーズではマイクロエレクトロニクス、ソフトウェア工学、情報処理、オフィスシステム、コンピュータ総合工業がなされ、230ものプロジェクトがスタートした。現在の主な目標は知識ベースシステム・シェルをより広く産業が使うようにすることであり、主なプロジェクトとして作物の病気の診断をするINSTIL、セマンティックネットワークで知識を表現するMADS、制約の操作が可能なPrologIII、連続した話を80%認識できるSIP等がある。

次のフェーズでの目標は、

- 複雑なシステムの管理と制御。
- システムの開発と操作のコストの軽減。
- システムの質と信頼性の向上。
- システムの能力の改善。

である。

質疑応答

質問：色々の国の企業、大学が集まっているが、マネージメント等はどのようにするのか？

回答：4つの役割を4つの焦点的な所に分ける。ヨーロッパの最高のエキスパートを沢山集める、更には外部からも呼ぶなどの援助は行なう。我々は設備などは作るが、それぞれに対して指示は行なわない。